

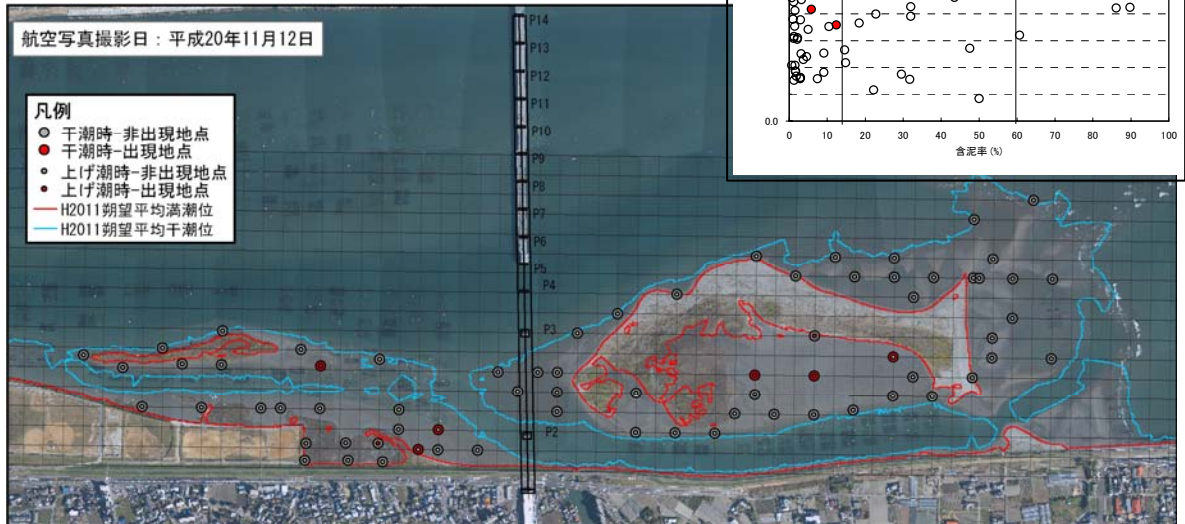
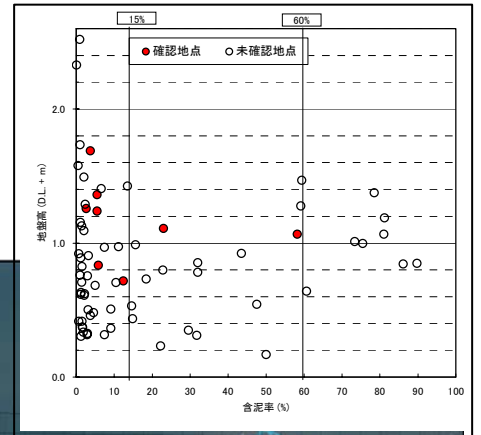
◎チクゼンハゼ

平成 19 年度は、河口干潟の右岸側干潟や上流側の干潟部、住吉干潟の干潮位の一部の地点で確認された。平成 20 年度も概ね同様の地点で確認された。

<平成 20 年秋季>

出現状況

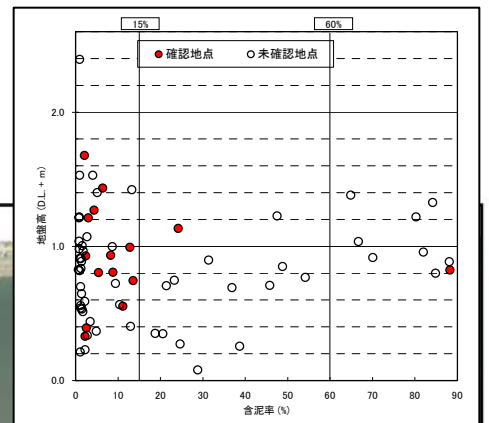
出現地点数	8 地点
地盤高範囲	0.716 ~ 1.686 m (+D.L.)
含泥率範囲	2.6 ~ 58.2 %



<参考：平成 19 年秋季>

出現状況

出現地点数	15 地点
地盤高範囲	0.330 ~ 1.676 m (+D.L.)
含泥率範囲	2.1 ~ 88.3 %



※本分布図は魚類調査および底生生物調査・定量調査での調査結果を元に作成した。

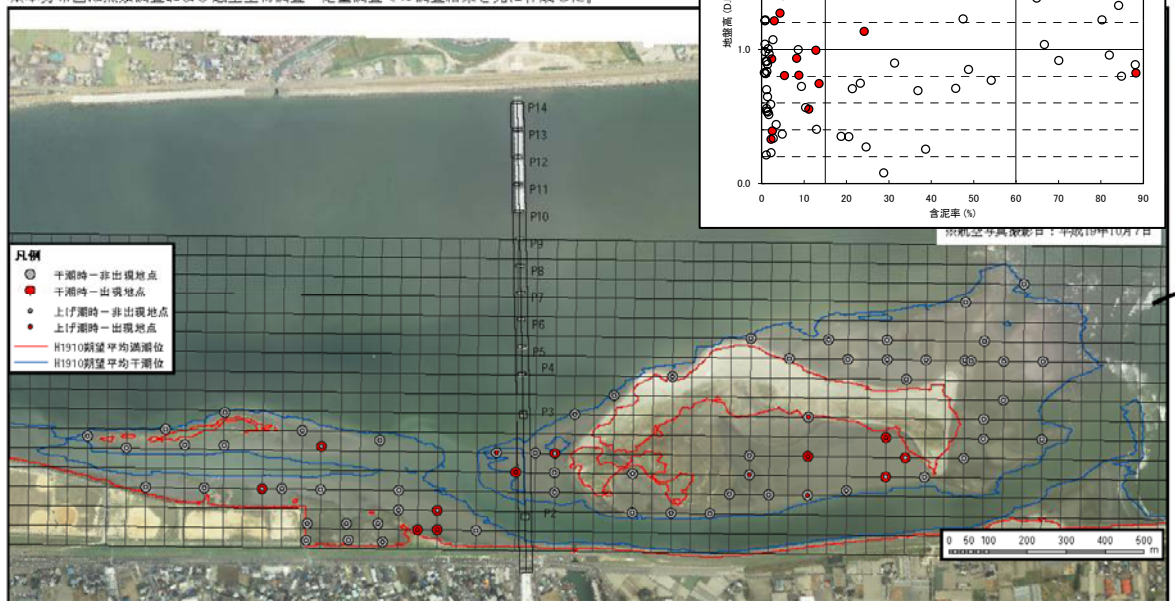


図 7-2-3-1(8) チクゼンハゼ確認状況

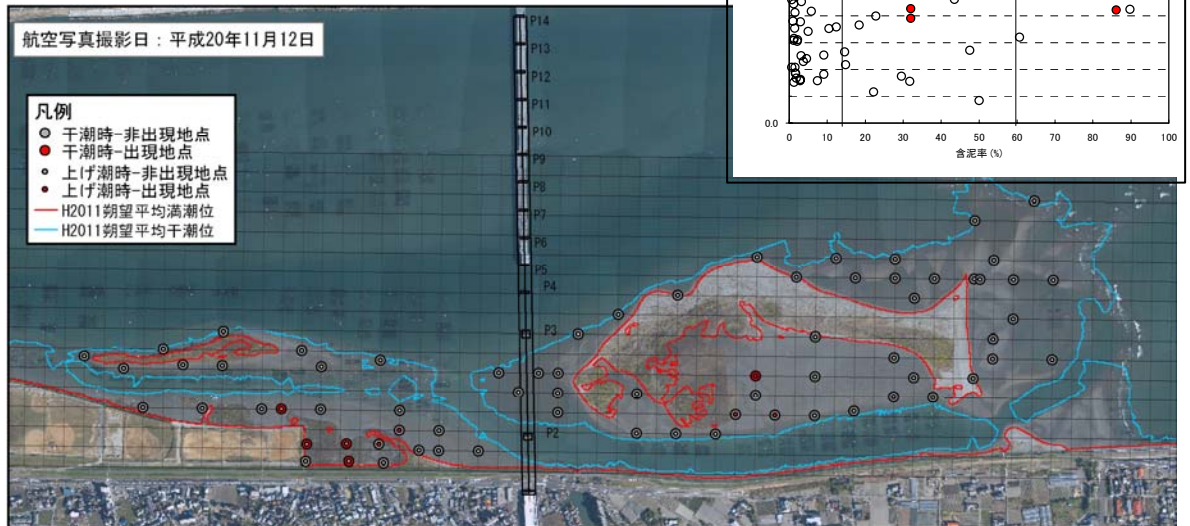
◎ニクハゼ

平成 19 年度は、住吉干潟のヨシ原付近の地点や河口干潟のヨシ原付近の地点で確認された。平成 20 年度も概ね同様の地点で確認された。

<平成 20 年秋季>

出現状況

出現地点数	9 地点
地盤高範囲	0.781 ~ 1.468 m (+D.L.)
含泥率範囲	5.5 ~ 86.1 %



<参考：平成 19 年秋季>

出現状況

出現地点数	11 地点
地盤高範囲	0.691 ~ 1.422 m (+D.L.)
含泥率範囲	5.1 ~ 88.3 %

※本分布図は魚類調査および底生生物調査・定量調査での調査結果を元に作成した。

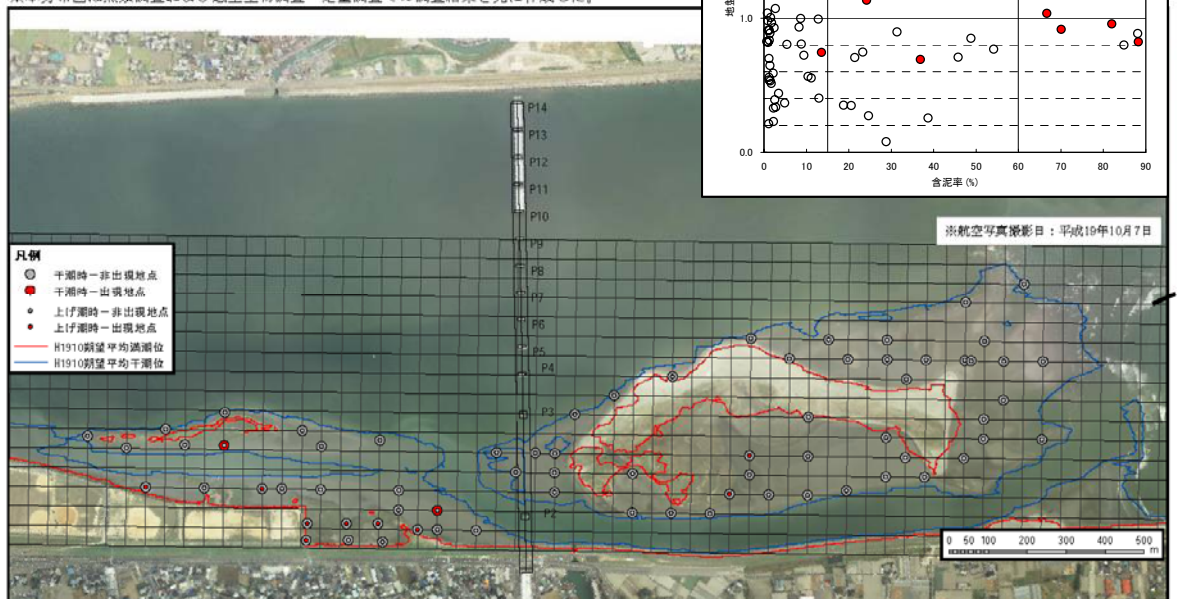


図 7-2-3-1 (9) ニクハゼ確認状況

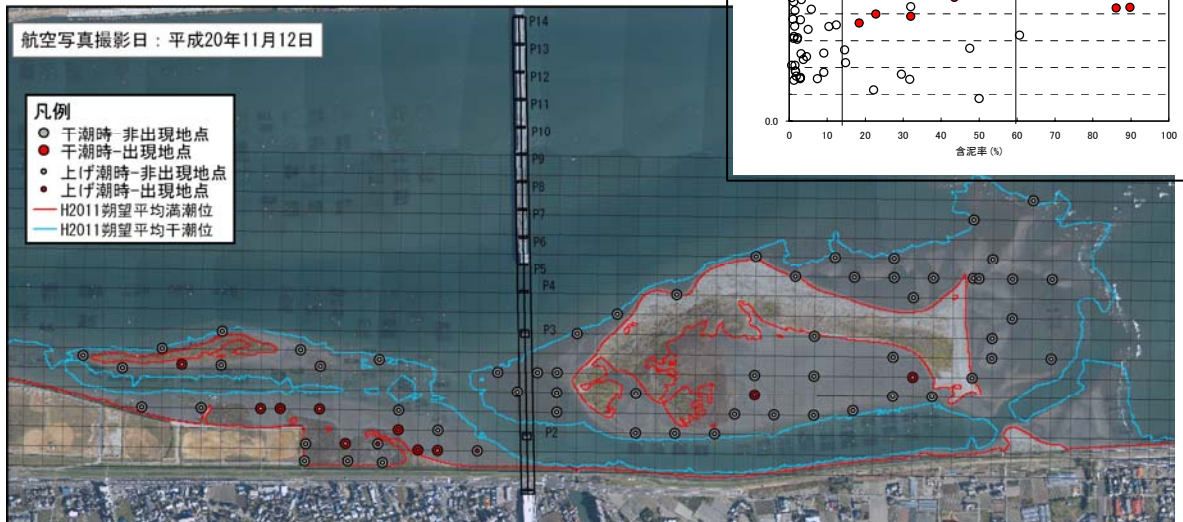
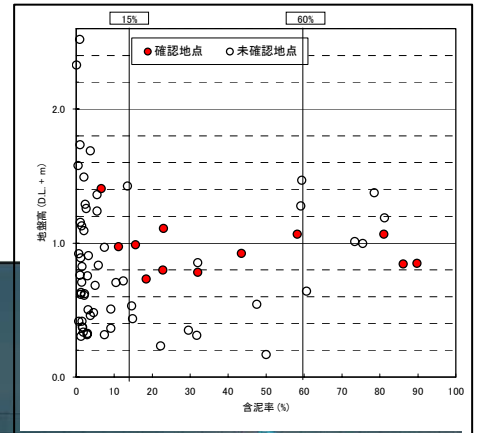
◎エドハゼ

平成 19 年度は、住吉干潟のグランド横の干潟部で確認された。平成 20 年度も概ね同様の地点で確認された。

<平成 20 年秋季>

出現状況

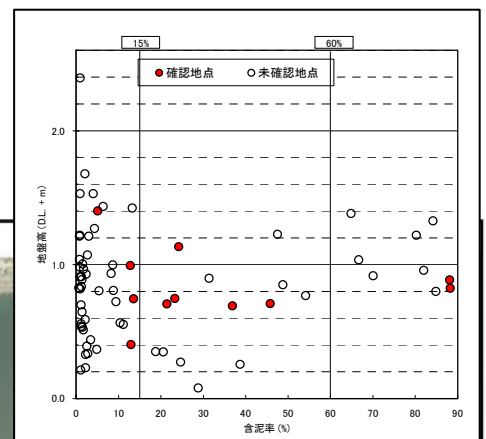
出現地点数	12 地点
地盤高範囲	0.732 ~ 1.404 m (+D.L.)
含泥率範囲	6.6 ~ 89.8 %



<参考：平成 19 年秋季>

出現状況

出現地点数	11 地点
地盤高範囲	0.404 ~ 1.399 m (+D.L.)
含泥率範囲	5.1 ~ 88.3 %



※本分布図は魚類調査および底生生物調査・定量調査での調査結果を元に作成した。

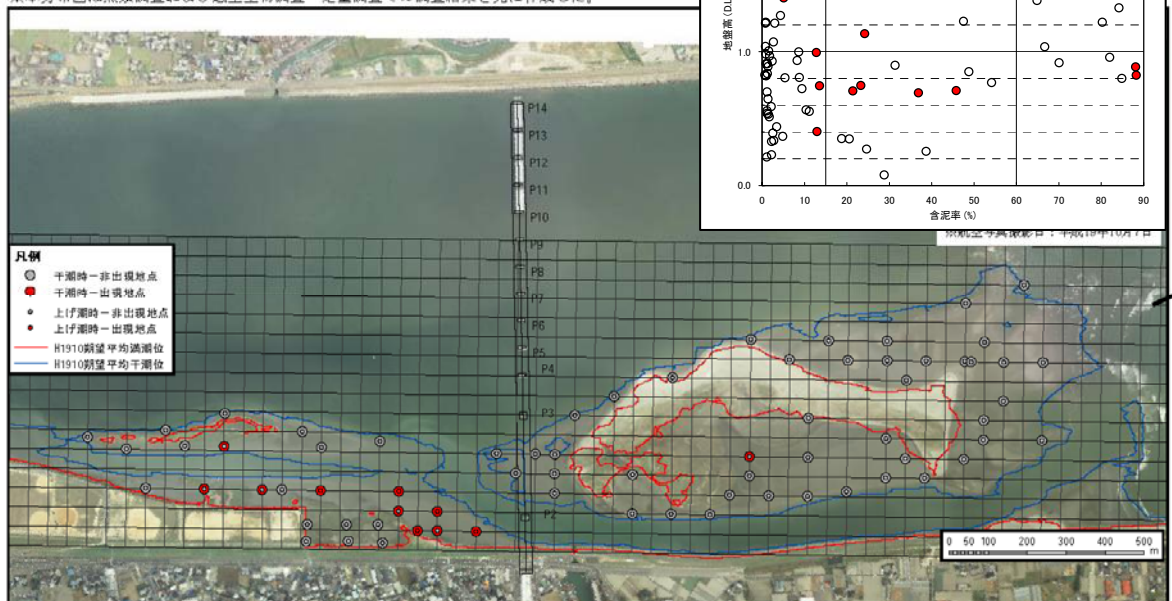


図 7-2-3-1(10) エドハゼ確認状況

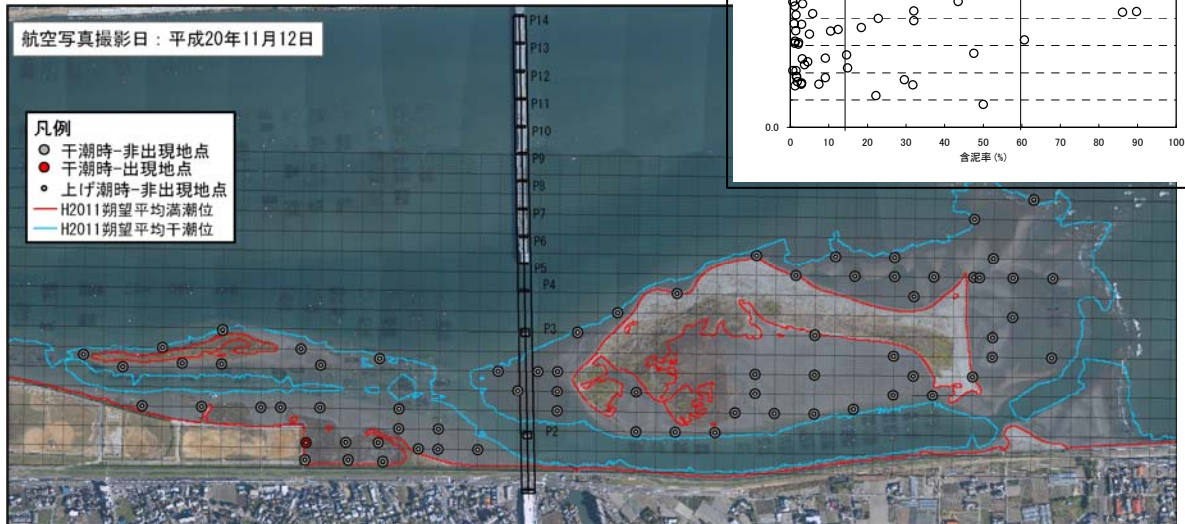
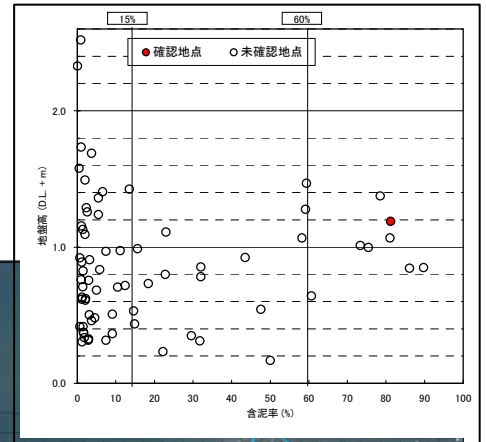
◎ビリンゴ

平成 19 年度は 3 地点、平成 20 年度は 1 地点とともに確認地点数は少なかった。平成 20 年度の確認地点は住吉干潟のヨシ原であったが、平成 19 年度にも住吉干潟のヨシ原内で確認されている。

<平成 20 年秋季>

出現状況

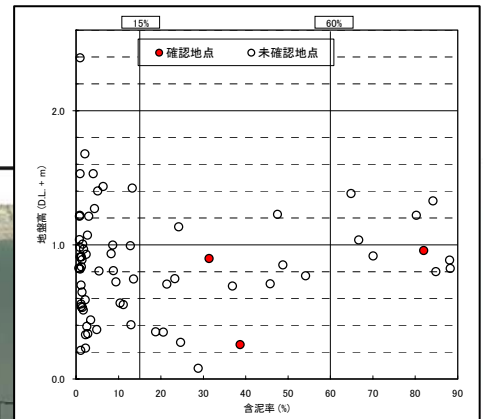
出現地点数	1 地点
地盤高範囲	1.187 m (+D.L.)
含泥率範囲	81.2 %



<参考：平成 19 年秋季>

出現状況

出現地点数	3 地点
地盤高範囲	0.256 ~ 0.956 m (+D.L.)
含泥率範囲	31.4 ~ 82.0 %



※本分布図は魚類調査および底生生物調査・定量調査での調査結果を元に作成した。

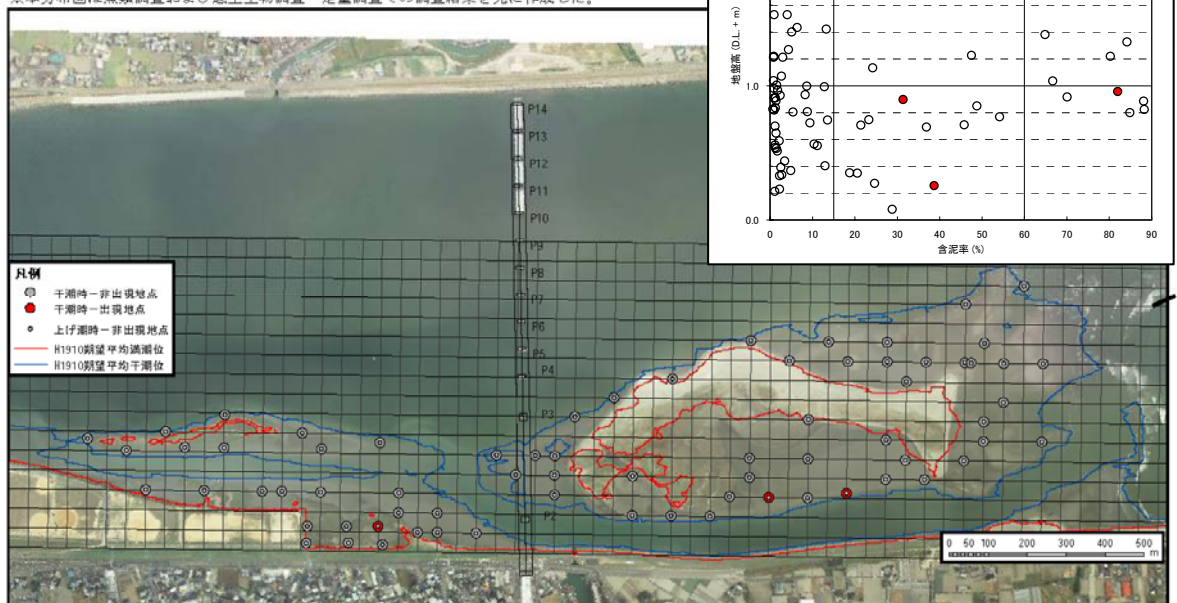


図 7-2-3-1(11) ビリンゴ確認状況

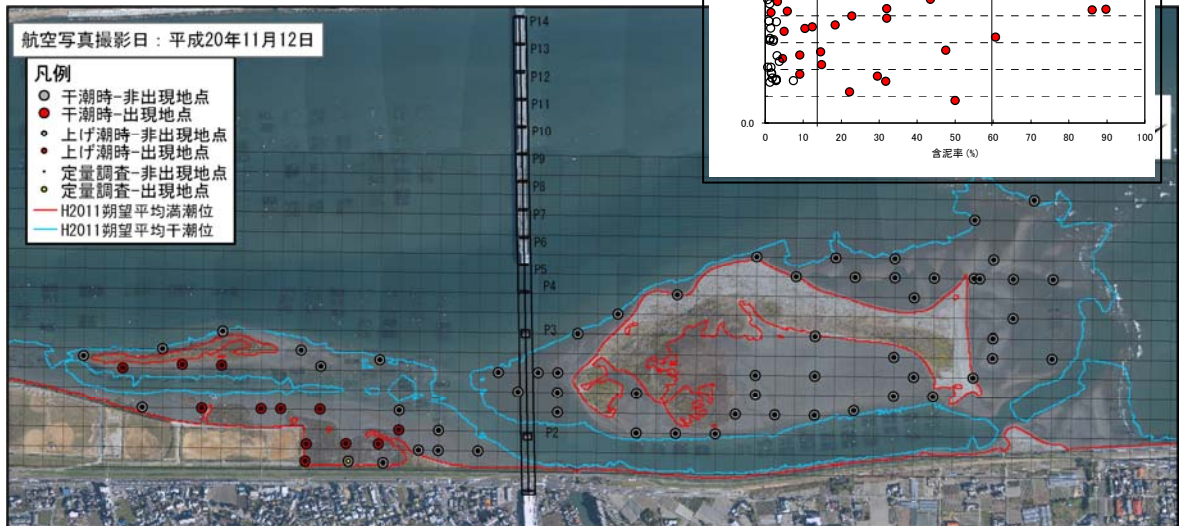
◎マハゼ

平成 19 年度は、住吉干潟周辺と河口干潟の右岸水路部、上流部の左岸側の干潮位付近で確認された。平成 20 年度も概ね同様の地点で確認された。

<平成 20 年秋季>

出現状況

出現地点数	32 地点
地盤高範囲	0.168 ~ 1.490 m (+D.L.)
含泥率範囲	1.5 ~ 89.8 %



<参考：平成 19 年秋季>

出現状況

出現地点数	30 地点
地盤高範囲	0.078 ~ 1.382 m (+D.L.)
含泥率範囲	2.2 ~ 88.3 %

※本分布図は魚類調査および底生生物調査・定量調査での調査結果を元に作成した。

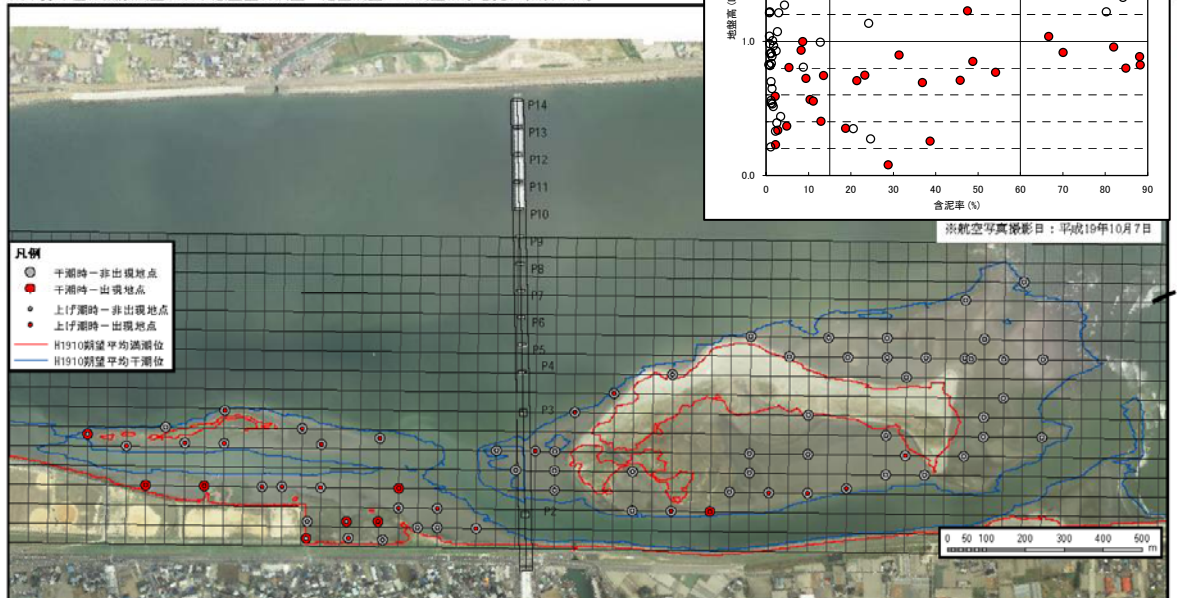


図 7-2-3-1(12) マハゼ確認状況

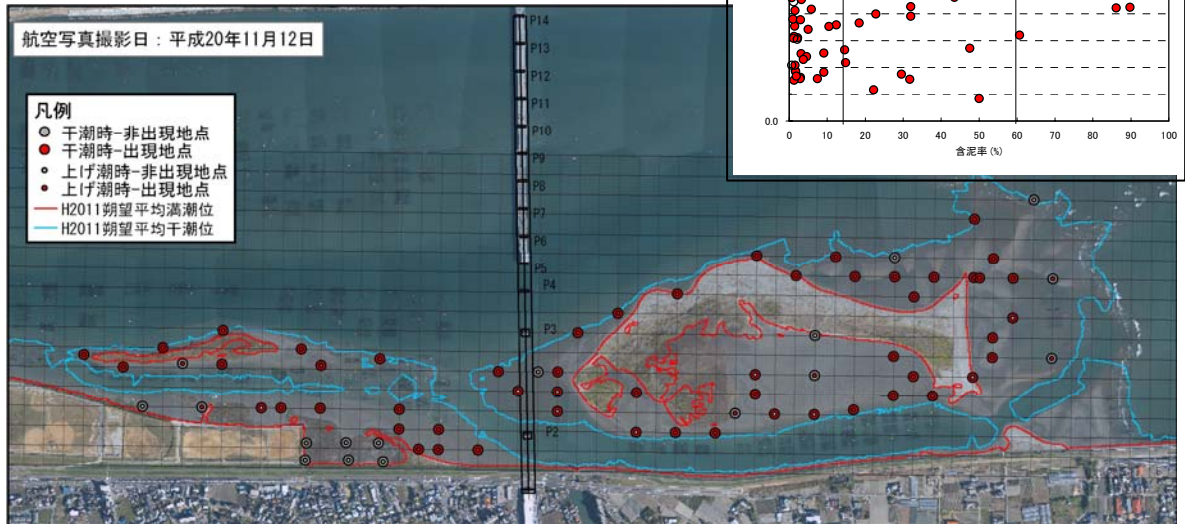
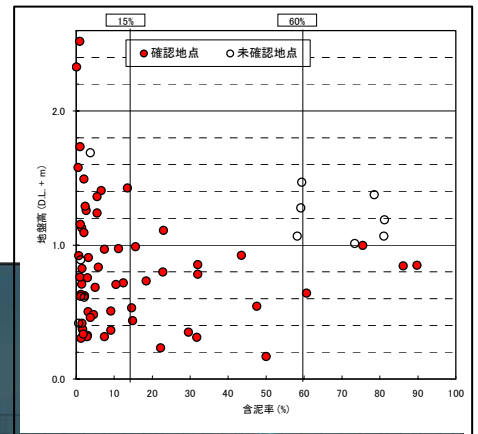
◎ヒメハゼ

平成 19 年度はほぼ調査地点全域で確認された。平成 20 年度も同様に多数の調査点で確認された。

<平成 20 年秋季>

出現状況

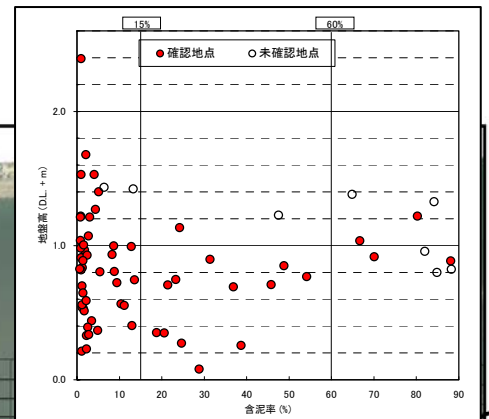
出現地点数	60 地点
地盤高範囲	0.168 ~ 2.518 m (+D.L.)
含泥率範囲	0.1 ~ 89.8 %



<参考：平成 19 年秋季>

出現状況

出現地点数	62 地点
地盤高範囲	0.078 ~ 2.393 m (+D.L.)
含泥率範囲	0.7 ~ 88.1 %



※本分布図は魚類調査および底生生物調査・定量調査での調査結果を元に作成した。

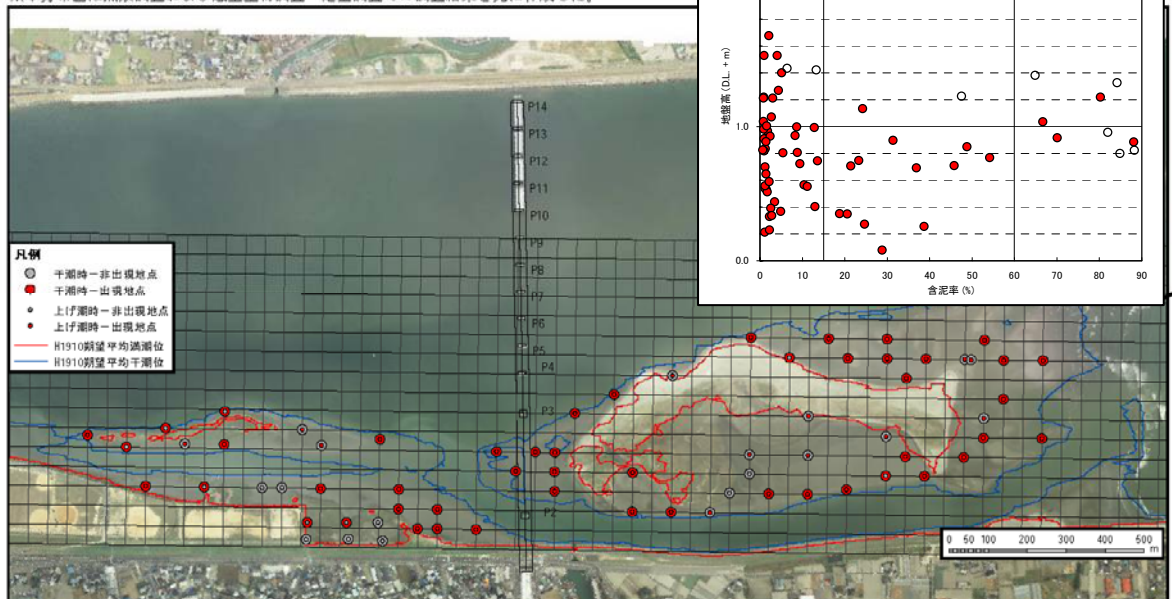


図 7-2-3-1(13) ヒメハゼ確認状況

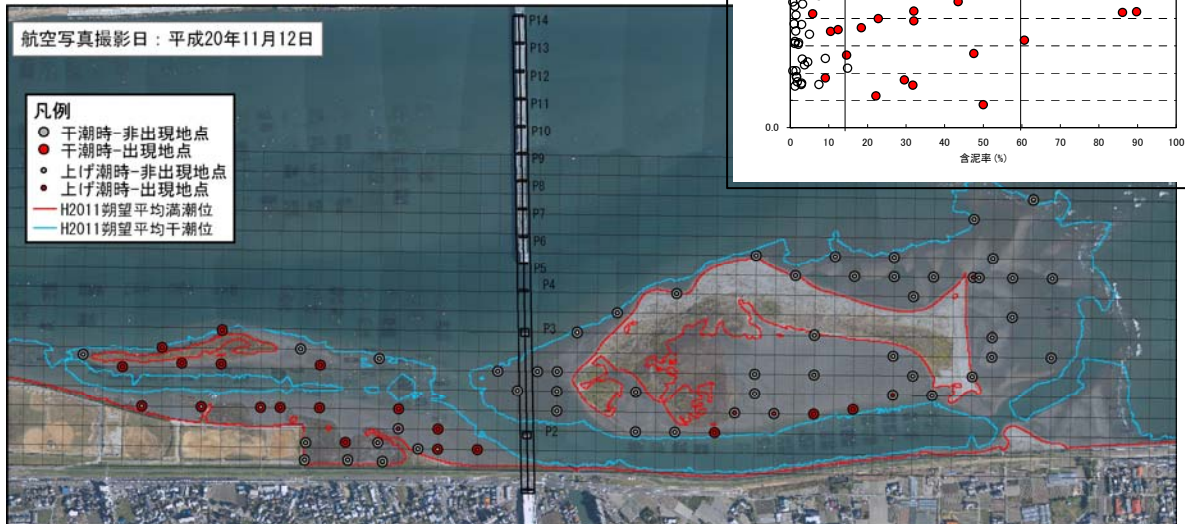
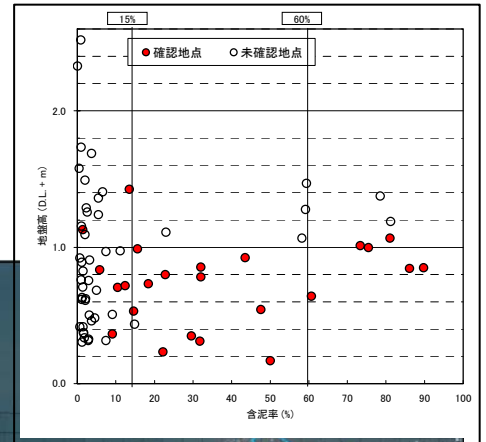
◎スジハゼ A 種

平成 19 年度は、住吉干潟のヨシ原内を除くほぼ全域で確認され、平成 20 年度も概ね同様な調査点で確認された。また、河口干潟の確認地点も平成 19 年度と同様で、右岸側干潟部の干潮位付近でのみ確認された。

<平成 20 年秋季>

出現状況

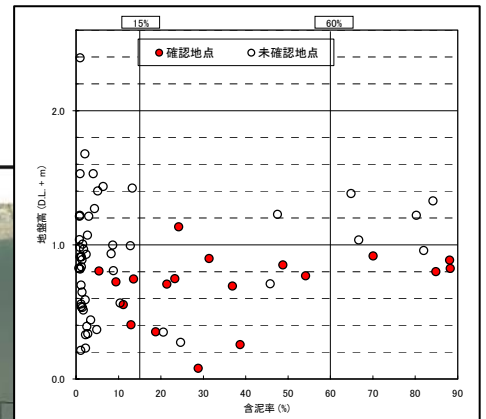
出現地点数	24 地点
地盤高範囲	0.168 ~ 1.425 m (+D.L.)
含泥率範囲	1.4 ~ 89.8 %



<参考：平成 19 年秋季>

出現状況

出現地点数	19 地点
地盤高範囲	0.078 ~ 1.133 m (+D.L.)
含泥率範囲	5.4 ~ 88.3 %



※本分布図は魚類調査および底生生物調査・定量調査での調査結果を元に作成した。

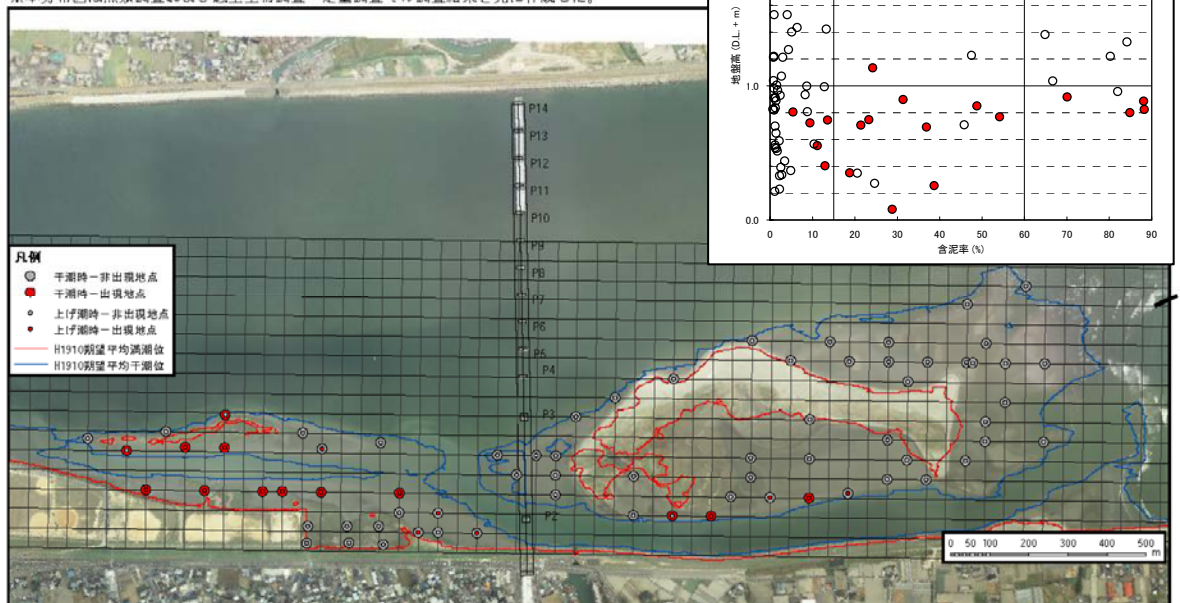


図 7-2-3-1(14) スジハゼ A 種確認状況

#### 7-2-4 魚類以外の確認種について

平成 20 年度調査で確認された魚類以外の底生動物の一覧を表 7-2-4-1 に示す。

平成 20 年度調査で確認された魚類以外の底生動物は、4 門 5 綱 15 目 42 科 63 種である。河口干潟で確認された種は 34 種、住吉干潟で確認された種は 50 種であった。

また、今回底生生物として新規に確認された種は、*Armandia* sp.、シマハマツボ、トゲアメフラシ、ウシエビ、ノコギリガザミの 5 種であった。



表 7-2-4-1 魚類調査での魚類以外の底生動物一覧

調査期間：平成20年9月23～30日

No.	門	綱	目	科	種名	和名	河口干潟	住吉干潟					
1	刺胞動物	花虫	イキンチャク	—	Actiniaria	イキンチャク目		○					
2	環形動物	多毛	サシバコカイ	コカイ	<i>Perinereis nuntia brevicirris</i>	スナイツコカイ		○					
3				チロリ	<i>Glycera</i> sp.	—		○					
4				イソメ	キホシイソメ	<i>Lumbrineris</i> sp.	—	○					
5				オフェリアコカイ	オフェリアコカイ	<i>Armandia</i> sp.	—	○					
6			軟体動物	腹足	原始腹足	ニシキウスカカイ	<i>Umbonium costatum</i>	キヤコ	○				
7		アマオブネカイ				<i>Clithon retropictus</i>	イシマキカイ		○				
8						<i>Neritina cornucopia</i>	ヒロクチカノコカイ		○				
9		中腹足			ミスコマツホ	<i>Stenothyra edogawaensis</i>	エドガワミスコマツホ	○	○				
10					カワガチツホ	<i>Iravadia elegantula</i>	カワガチツホ		○				
11						<i>Elachisina ziczac</i>	ササナミツホ		○				
12						カワサシショウカイ	Assimineidae	カワサシショウカイ科		○			
13						オノツノカイ	<i>Australaba picta</i>	シマハマツホ	○				
14		新腹足			ムシロカイ	<i>Reticunassa festiva</i>	アラムシロカイ	○	○				
15		頭楯			トリカクガイ	Pyramidellidae	トリカクガイ科		○				
16					スイカガイ	Cylichnidae	スイカガイ科		○				
17		無楯			アメラシ	<i>Bursatella leachii</i>	トケアメラシ	○	○				
18	二枚貝	イガイ			イガイ	イガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	コウロエンカイヒバリアカイ		○			
19						マルスタレカイ	マルスタレカイ	<i>Veremolpa micra</i>	ヒメカノアサリ	○			
20								<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ	○	○		
21								<i>Gomphina melanaegis</i>	コタマカイ	○			
22								<i>Meretrix lusoria</i>	ハマグリ	○	○		
23							ハカガイ	<i>Mactra chinensis</i>	ハカガイ	○			
24							フシノハカイ	<i>Chion semigranosa</i>	フシノハカイ	○			
25							アサシガイ	<i>Theora fragilis</i>	シズクガイ		○		
26							ハナクモリガイ	<i>Glaucanome chinensis</i>	ハナクモリガイ		○		
27							マテガイ	<i>Solen strictus</i>	マテガイ		○		
28					節足動物	甲殻	完胸	アソ	<i>Balanus albicostatus</i>	シロスジフソ	○	○	
29									アミ	<i>Archaeomysis</i> sp.	アルケオミリス属	○	
30										<i>Neomysis</i> sp.	イサアミ属		○
31								等脚	スウミナフシ	<i>Cyathura</i> sp.	スウミナフシ属		○
32										スホリムシ	<i>Exciroilana chiltoni</i>	ヒメスホリムシ	○
33				<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.			イソツツムシ属			○			
34			コツツムシ	<i>Sphaeroma sieboldii</i>			ナツツバコツツムシ		○	○			
35		十脚	クルマエビ				<i>Metapenaeus joyneri</i>	シハエビ	○	○			
36								<i>Penaeus monodon</i>	ウシエビ		○		
—								Penaeidae	クルマエビ科	○	○		
37				サクラエビ			<i>Acetes japonicus</i>	アキアミ		○			
38				テッポウエビ			<i>Alpheus</i> sp.	テッポウエビ属	○	○			
39				ツノエビ			<i>Ogyrides orientalis</i>	ツノエビ		○			
40				テナカエビ			<i>Exopalaemon orientis</i>	シラタエビ		○			
41							<i>Palaemon paucidens</i>	エビナカスジエビ	○	○			
42							<i>Palaemon serrifer</i>	スシエビモトキ		○			
43				エビジヤコ			<i>Crangon uritai</i>	—	○	○			
44				ハサミシヤコエビ			<i>Laomedea astacina</i>	ハサミシヤコエビ		○			
45				アサジヤコ			<i>Upogebia yokoyai</i>	ヨコヤアサジヤコ	○	○			
46				スホモクリ			<i>Callinassa japonica</i>	ニホンスホモクリ	○				
—							<i>Callinassa</i> sp.	スホモクリ属		○			
47				ホシヤドカリ			<i>Pagurus minutus</i>	エビナカホシヤドカリ	○				
48				カテッパ			<i>Matuta planipes</i>	アミケンセンカニ	○				
49							<i>Matuta victor</i>	ケンセンカニ	○	○			
50				コブシカニ			<i>Philyra pisum</i>	マメコブシカニ		○			
—				<i>Philyra</i> sp.			マメコブシカニ属		○				
51			ワタリカニ	<i>Portunus trituberculatus</i>			カサミ	○	○				
52				<i>Portunus pelagicus</i>			タイワンカサミ	○	○				
—				<i>Portunus</i> sp.			カサミ属	○	○				
53				<i>Scylla serrata</i>			ノコギリカサミ		○				
54			カクレカニ	Pinnotheridae			カクレカニ科		○				
55			スナカニ	<i>Camptandrium sexdentatum</i>			ムツアリアカニ	○	○				
56				<i>Ilyoplax pusilla</i>			チコカニ	○	○				
57				<i>Macrophthalmus japonicus</i>			ヤマトオサカニ	○	○				
—				<i>Macrophthalmus</i> sp.			オサカニ属		○				
58				<i>Ocypoda stimpsoni</i>			スナカニ		○				
59				<i>Scopimera globosa</i>			コムツキカニ	○					
60			イワカニ				<i>Acmaeopleura toriumii</i>	トリウミアカイモトキ	○	○			
61							<i>Helice tridens</i>	アシハラカニ	○				
62							<i>Hemigrapsus takanoi</i>	タカノケサイワカニ	○	○			
—							<i>Hemigrapsus</i> sp.	イワカニ属		○			
63							<i>Clitocoeoloma sinense</i>	ウレベソウカイカニ		○			
—	4門	5綱	15目	42科				種類数	34	50			

注：太字は、底生生物調査で確認されなかった底生動物を示す。

魚類以外の底生生物の種別の確認個体数を図 7-2-4-1 に示す。

河口干潟では *Crangon uritai*、アラムシロガイ、アルケオミシス属が多く確認された。住吉干潟では、エドガワミズゴマツボ、*Crangon uritai*、シラタエビ、アラムシロガイ等が多く確認された。

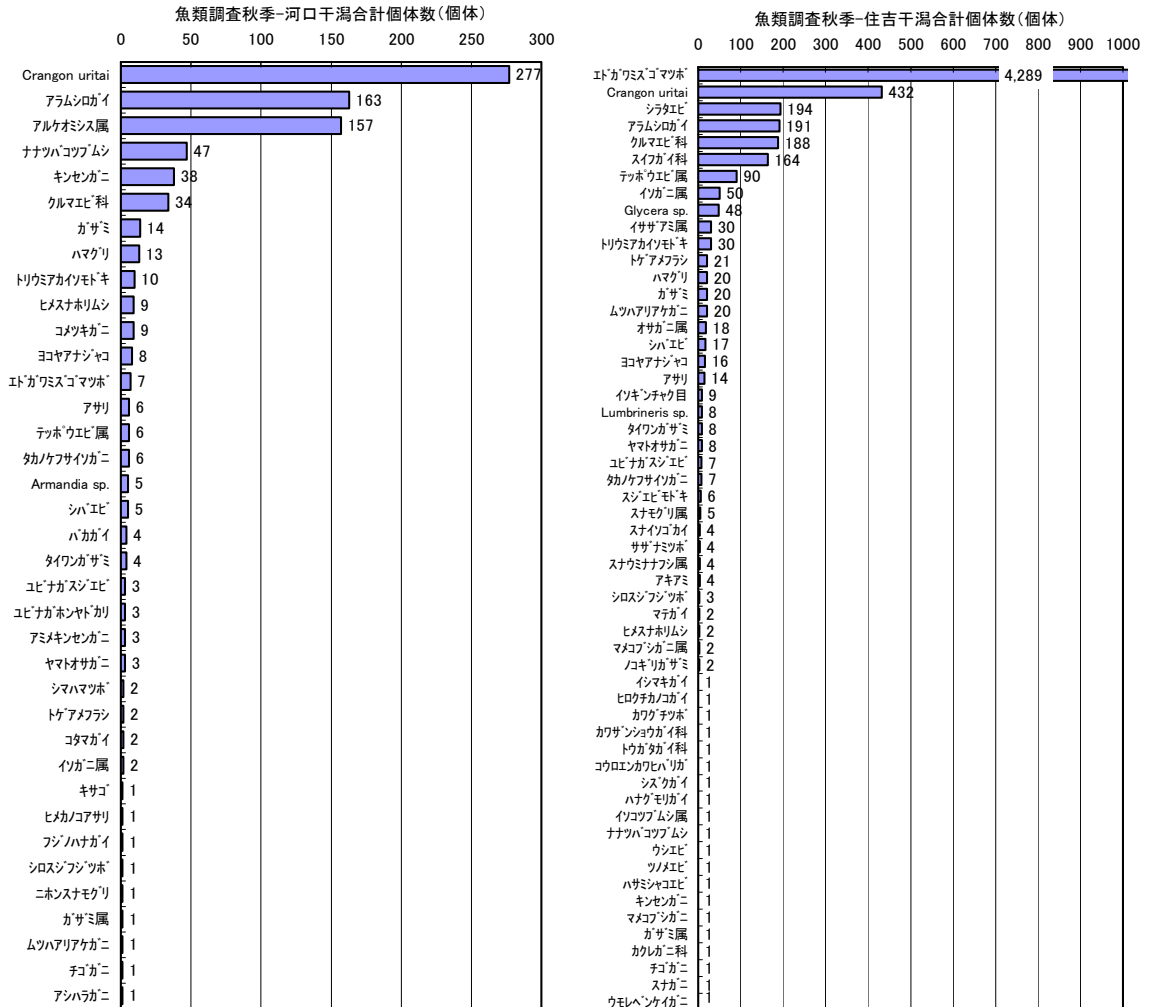


図 7-2-4-1 魚類以外の底生動物の個体数

## 7-3 考察

### 7-3-1 魚類の出現傾向

表 7-3-1-1 に平成 16 年度から平成 20 年度の期間に本モニタリング調査で確認された魚類の一覧を示す。

平成 20 年度までに確認された魚類は、軟骨魚類がアカエイ 1 種であり、硬骨魚類は 13 目 40 科 81 種確認され、合計 82 種であった。

各調査回の出現種類数は 31 種から 53 種の範囲にあり平成 20 年度は多い方であった。



前述の調査開始から確認された 51 種類のうち、全ての調査時期に河口干潟、住吉干潟の双方で確認された魚種を表 7-3-1-2 に示す。該当する魚種は、平成 19 年度秋季と同様に 6 種類であった。

いずれの種も沿岸域や河口域を生息の場とする普通に見られる種である。この 6 種類の魚種のうち肉食魚であるスズキを除く種は、海底表面の藻類や有機物あるいは小動物を接触する生態を持つ種であった。

表 7-3-1-2 全魚類調査時に河口干潟、住吉干潟両方で確認された魚類

NO.	分類					生活型	
	綱	目	科	種			
				和名	学名		
1	硬骨魚	ボラ	ボラ	セスジボラ	<i>Chelon affinis</i>	遊泳性	
2				ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>	遊泳性	
3		スズキ	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	遊泳性	
4				ヒイラギ	<i>Leiognathus nuchalis</i>	遊泳性	
5				ハゼ	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	底生性
6					ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>	底生性

次いで、調査期間を通じて、河口干潟、住吉干潟いずれか一方でのみで確認されている魚類について、過去調査結果の確認個体数合計と合わせ表 7-3-1-3 に示す。

河口干潟のみで確認された種は 21 種、住吉干潟のみで確認された種が 7 種であった。

河口干潟のみの確認種が多い理由は、河口干潟が直接外界に面しているため海域からの回遊魚が採捕されやすいためと考えられる。

住吉干潟でのみ確認される希少種のタビラクチは確認個体数も他の種より多く、砂泥干潟である住吉干潟を選考していると考えられる。

表 7-3-1-3 河口干潟もしくは住吉干潟でのみ確認された魚類一覧

NO.	分類					河口干潟のみで確認	住吉干潟のみで確認	総確認個体数	
	綱	目	科	種					
				和名	学名				
1	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	ウナギ		●	●	1	
2		ニシン	ニシン	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>	●		2	
3		ナマズ	ゴンズイ	ゴンズイ	<i>Plotosus lineatus</i>	●		2	
4		サケ	アユ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	●		1	
5		ダツ	サヨリ	サヨリ	<i>Hyporhamphus sajori</i>	●		2	
6			ダツ	ダツ	<i>Strongylura anastomella</i>	●		1	
7			メダカ	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>		●	1	
8		トゲウオ	ヨウジウオ	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegelii</i>	●		1	
9				カワヨウジ	<i>Hippichthys spicifer</i>	●		1	
10		ボラ	ボラ	タイワンメナダ	<i>Moolgarda seheli</i>	●		3	
11		カサゴ	コチ	イネゴチ	<i>Cociella crocodila</i>		●	2	
12		スズキ	カジカ	アナハゼ	<i>Pseudoblennius percoides</i>	●		2	
13			アジ	ロウニンアジ	<i>Caranx ignobilis</i>		●	11	
14				コバンアジ	<i>Trachinotus bailloni</i>	●		1	
15			クロサギ	セダカクロサギ	<i>Gertes erythrourus</i>	●		3	
16			イサキ	コショウダイ	<i>Plectorhinchus cinctus</i>	●		4	
17			ヒメジ	ヒメジ	<i>Upeneus japonicus</i>	●		1	
18			メジナ	メジナ	<i>Girella punctata</i>	●		1	
19			ニシキギンボ	ギンボ	<i>Pholis nebulosa</i>	●		3	
20			イソギンボ	ナベカ	<i>Omobranchus elegans</i>	●		1	
21			ハゼ		タビラクチ	<i>Apocryptodon punctatus</i>		●	56
22					ボウズハゼ	<i>Sicyopterus japonicus</i>	●		1
23					シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>		●	3
24			カマス	オニカマス	<i>Sphyræna barracuda</i>	●		1	
25			イボダイ	イボダイ	<i>Psenopsis anomala</i>	●		2	
26			カレイ	カレイ	マコガレイ	<i>Pleuronectes yokohamae</i>		●	2
27					ササウシノシタ	<i>Heteromycteris japonica</i>	●		5
28		カワハギ			アミメハギ	<i>Rudarius ercodes</i>	●		1
					21種	7種	-		

### 7-3-2 希少種について

これまでに確認された希少種についてとりまとめた。河口域や干潟でみられる希少種は、全国的な干潟域の生息環境の単純化や汚濁の進行、あるいは生息域である干潟やヨシ原の減少・消滅を原因として希少と評価されている種がほとんどである。

希少性の判断基準として、以下の資料を参考にした。各資料における評価の基準を表 7-3-2-1 に示す。

- ・ 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（1992 年、法律第 75 号）
- ・ 環境省（2003 年）「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 汽水・淡水魚類」（2007 年 8 月 3 日環境省発表資料 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて」による改訂を含む）
- ・ 徳島県（2001 年）「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 ー徳島県版レッドデータブックー」

表 7-3-2-1 希少性の評価の基準

改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 ーレッドデータブックー 汽水・淡水魚類	
絶滅(EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅(EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧I類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧IA類(CR)	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧IB類(EN)	IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧II類(VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧(NT)	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧II」に移行する可能性のある種
情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 ー徳島県版レッドデータブックー	
絶滅危惧I類	徳島県において、絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧II類	徳島県において、絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	徳島県において、現時点では絶滅の危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧II」として上位ランクに移行する要素を有するもの
留意	現時点では絶滅の危険性は小さいが、生息条件の変化によっては、上位ランクに移行する可能性があるもの。絶滅の危険度は高くないが、生息の特定の環境条件が必要なもの。徳島県固有種、分布局限種など。

これまでの魚類調査で確認された希少種の一覧と、希少性の評価の概要を表 7-3-2-2 に示す。これまでの調査で 17 種の希少な魚類が確認されている。このなかには、タビラクチ（環境省：絶滅危惧 IB 類、徳島県：絶滅危惧 I 類）やチクゼンハゼ（環境省：絶滅危惧 II 類、徳島県：絶滅危惧 I 類）、エドハゼ（環境省：絶滅危惧 II 類、徳島県：絶滅危惧 I 類）などの希少性の高い種も含まれている。

表 7-3-2-2 確認された希少種の概要

NO.	分類				選定状況				
	綱	目	科	種	レッドデータブック・レッドデータリスト				
				和名	種の保存法	環境省	環境省*	徳島県版	
1	硬骨魚	サケ	シラウオ	シラウオ				絶滅危惧Ⅱ類	
2		ダツ	サヨリ	クルメサヨリ				準絶滅危惧	
3			メダカ	メダカ		絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
4		トゲウオ	ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ				留意	
5		スズキ	ハゼ	タビラクチ		絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類	
6				トビハゼ			準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
7				チワラスボ			絶滅危惧ⅠB類		
8				ボウズハゼ				留意	
9				ヒモハゼ				準絶滅危惧	準絶滅危惧
10				チクゼンハゼ			絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
11				ニクハゼ					留意
12				エドハゼ			絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
13				ビリンゴ					留意
14				アシシロハゼ					留意
15		マサゴハゼ				絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧		
16		スジハゼ（キララハゼ属の一種）						留意	
-		スジハゼA種							
17	シモフリシマハゼ						留意		
	1綱	4目	5科	17種	0	4	9	15	

注：レッドデータブックの環境省\*欄は平成19年8月に見直しが行われたレッドリストとの参照結果を示す。

表 7-3-2-3 に本調査における希少種の出現状況を示す。

平成20年度は、平成19年度の秋季調査とほぼ同等の13種の希少種が確認された。また、河口干潟と住吉干潟では、種類数、採捕個体数ともに住吉干潟で多かった。

平成16年度以降連続して確認されている希少種は、トビハゼ、チクゼンハゼ、ニクハゼ、ビリンゴ、スジハゼA種の5種であり、全7回中6回の調査で確認された種は、ガンテンイシヨウジ、タビラクチ、ヒモハゼの3種であった。いずれの種も個体数の減少傾向などは認められなかった。

表 7-3-2-3 希少種の出現状況

NO.	和名	河口干潟					住吉干潟					合計					合計								
		H16	H17	H18	H19	H20	H16	H17	H18	H19	H20	H16	H17	H18	H19	H20									
		9月	7月	7月	10月	5月	9月	9月	9月	7月	7月	10月	5月	9月	9月	9月		7月	7月	10月	5月	9月	9月		
1	シラウオ		66																					340	
2	クルメサヨリ			12	3																				19
3	メダカ																								1
4	ガンテンイシヨウジ																								23
5	タビラクチ																								91
6	トビハゼ																								449
7	チワラスボ																								6
8	ボウズハゼ																								1
9	ヒモハゼ																								548
10	チクゼンハゼ																								1,325
11	ニクハゼ																								262
12	エドハゼ																								3,807
13	ビリンゴ																								635
14	アシシロハゼ																								138
15	マサゴハゼ																								358
16	スジハゼ（キララハゼ属の一種）																								12
-	スジハゼA種																								1,580
17	シモフリシマハゼ																								3
	種類数	6	6	7	4	11	10	7	9	10	10	5	15	11	13	10	11	10	7	16	12	13			
	採捕数	76	306	253	56	2068	457	124	267	207	65	143	3951	957	668	343	513	318	199	6019	1414	792			
																									3,340
																									6,258
																									9,598

注1：数値は干潟域の魚類調査で採捕された出現個体数。

注2：平成16年度と平成17年度のスジハゼは、スジハゼA種と考えられる。

\*平成16年度と平成17年度は類型分けをせず、スジハゼとして記録されているが、その後の採捕状況や知見から、この両年に採捕された種もスジハゼA種とみなした。

#### 7-4 魚類調査のまとめ

- ・ 平成 20 年度調査で確認された魚類は、12 目 25 科 47 種であり、河口干潟で 42 種、住吉干潟で 21 種、周辺海域で 8 種確認された。
- ・ 採捕された魚類の個体数では、ヒメハゼが 2,205 個体と他の種に比べ著しく多かった。その他の魚種ではカタクチイワシ、シロギス、スジハゼ A 型、トウゴロウイワシなどが多かった。また、これら個体数の多い魚種のうち、カタクチイワシを除く魚種は、多数の地点で採捕されている。
- ・ 代表種として選定した回遊魚のボラ、セスジボラや底生魚のハゼ類は平成 19 年度とほぼ同様な地点で生息が確認された。
- ・ 魚類採捕時に魚網で採集された底生動物は、4 門 5 綱 15 目 42 科 63 種である。個体数は河口干潟ではエビジャコ科の *Crangon uritai*、アラムシロガイ、アミ科のアルケオミシス属が多く、住吉干潟ではエドガワミズゴマツボ、*Crangon uritai*、シラタエビ、アラムシロガイ、クルマエビ科が多かった。
- ・ 経年的な確認種は軟骨魚類のアカエイと、硬骨魚類は 13 目 40 科 81 種確認された。
- ・ 希少種は調査期間を通じて 17 種確認され、平成 20 年度は 13 種確認された。全 7 回の調査中 6 回以上出現しているトビハゼ、チクゼンハゼ、ニクハゼ、ビリンゴ、スジハゼ A 種、ガンテンイシヨウジ、タビラクチは個体数の減少傾向等は認められなかった。